

ジェンダー問題の理解促進に向けた地域展開事業【神奈川県横浜市】

総事業費	660 千円
交付金額	330 千円

地域の実情と課題

横浜市「男女共同参画に関する市民意識調査」(R2)によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての意識は、「反対」が53.4%、「賛成」が34.9%と依然として3割以上の人々が性別役割分担意識を持っている。また、共働き世帯における平日の家事・育児・介護に費やす時間をみると男性と女性の割合は約1対4となっており、家事育児の負担は女性に偏っている。

目的・目標

男性の家事・育児・介護への参画を促進し、女性の就業を支援するために、ジェンダー問題の理解促進に資する市民向けワークショップを開発した。オンライン3回、すごろくワーク2回、ジェンダーに関するアンケート1回、前述のワーク全てを振り返るためのオンラインワークショップ1回、合計7回のワークを開催し、目標開催回数である3回を上回った。

事業の特徴

ジェンダー分野と関連の深い子育てや青少年、教育、福祉等の分野に関する研修事業や交流活動、企画・コンサルティング業務を担う法人と連携してワークショップを企画・開催することにより、様々な世代が性別役割分担意識やジェンダーについて対話し、考える場を創出した。

連携団体

- (ワークショップ開発・実施、人材育成)
- ・一般社団法人ラシク045
- ・NPO法人アクションポート横浜
(広報・運営協力)
- ・公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

事業の効果

ワークショップの参加者からは、「今までジェンダーについて考える機会がなかったため、視野が広がる良い経験となった」、「ジェンダーというテーマは話しにくいイメージがあるが、すごろくによって対話が深まると実感した」、「世代や性別が異なっても本音で深い話ができると思った」等の声があり、ジェンダー問題について理解を深めるきっかけを創出することができた。

今後の課題

地域でのジェンダー問題の理解促進のために、本事業を市内に広く展開していくことが必要である。実施したワークの中で最も対話が弾み、参加者が理解を深めることにつながると考えられる「すごろくワーク」を活用し、ワークショップを開催できる人材を育成していく。

事業の概要

●参加者募集チラシ

令和4年度 横浜市政策局男女共同参画推進課×ラシク045×アクションポート横浜
 世代間をこまめに「学生×子育て世代×中高生」世代の対話型企画企画2弾
 第5次横浜市男女共同参画行動計画を市民の皆さんと進めよう

“ジェンダー平等”

ってそういうこと?

「性別にかかわらず多様な選択を実現できる社会を目指して」
 第5次横浜市男女共同参画行動計画(2021~2025)

あらゆる世代の毎日の暮らしの中に、隠れていたり気づかなかったり、遠くを眺めている“ジェンダー”
 “男女共同参画”というキーワード。いろいろな考えのいる人達が《自分達として考える》を真ん中に、
 気づく、知る、語り合うことを大切に横浜市市民の活動で考える連続企画!

よなよなオンラインワーク
 学生×子育て世代×社会人
 8/5 金 19:30~21:00
 テーマ 漫画&アニメ
 9/2 金 19:30~21:00
 テーマ 「子育て生活って」
 10/7 金 19:30~21:00
 テーマ 「学生生活って」

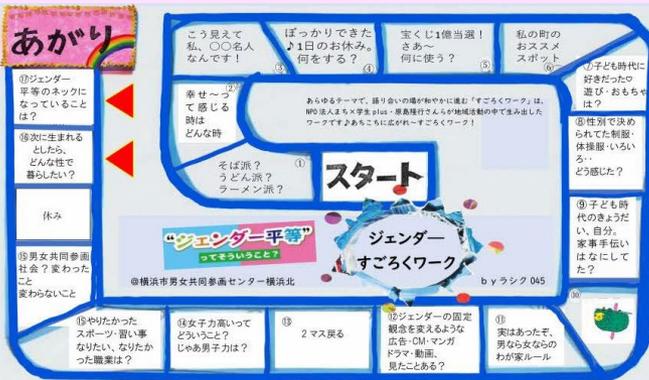
対話型イベント！ジェンダーすごろくワーク
 参加費無料
 8/27土 13:30~16:00
 9/10土 10:30~12:00

突撃！学生アンケート100人に聞きました!
 学生×トレス調査
 9/10土 11:00~17:00
 ハーベスト(仮)対話会
 オンライン 12/3土

主催 横浜市政策局男女共同参画推進課 一般社団法人ラシク045 NPO法人アクションポート横浜
 問合せ: rashiku045@gmail.com

●すごろくワーク

市民利用施設を会場に、すごろくを活用した対話型ワークショップの手法を学び、実際にワークショップを実施。ジェンダーという話しにくいテーマでも、すごろくによって対話を深めることができた。参加者数:28人



●アンケート

様々な人が行き交う商業施設において、ジェンダーに関するWebアンケートを実施。日常生活で女らしさや男らしさについて言われたり期待されたりすることがあると回答した人が9割おり、その多くが家庭や親族関係において期待されていると感じていることが明らかとなった。回答者数:101人



●オンラインワーク



学生や子育て世代等、様々な世代を対象に、オンラインを利用した対話型ワークショップを実施。身近にある漫画やアニメ、子育て生活や学生生活をテーマとして設定。オンラインで開催することにより、学生や子育て世代等、ライフスタイルが異なる中でも多様な世代に参加していただくことができた。

- ①漫画&アニメ(参加者数31人)、
- ②子育て生活って?(参加者数28人)、
- ③学生生活って?(参加者数26人)